

## 福智町防災の最前線に迫る 防災行政瓦版

大規模災害が続発する今、「防災行政」への関心が高まっています。将来起こりえる災害へ町はどのような対策を講じているのか…。最新の「福智町防災行政」を一挙紹介します。

### 1 避難所の改定

**過去**の避難実績や住民の皆さんの声、災害リスクなどを考慮し、今年3月に避難所の見直しを行い、下記の通り改訂しました。指定避難所だった「福智町役場」、指定緊急避難所だった「高尾同和対策集会所」の指定を解除していますのでご注意ください。

#### 自主避難所 ★…新規指定された所

災害発生の際、住民が自主的に避難する場合、一時的に滞在できる施設。

- 公民館金田分館★
- 中央公民館
- 公民館方城分館

#### 福祉避難所

要配慮者のための施設。

- コスモス保健センター

#### 指定避難所 (状況に応じて開所)

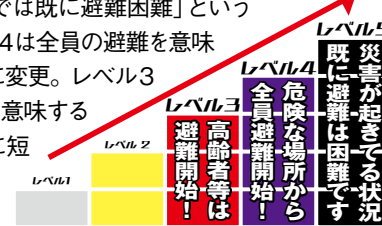
住民が一時的に避難・滞在できる施設。

- 金田体育センター
- 方城体育館
- 方城保健センター
- 地域交流センター★
- 方城児童センター★
- ふれあい塾
- ふれあい館
- やすらぎ館
- 大浦隣保館
- 市場小学校
- 上野小学校
- 伊方小学校
- 弁城小学校
- 赤池中学校
- 方城中学校
- 金田義務教育学校★



### 2 大雨警戒レベルの変更

今年5月から、大雨警戒レベルが変更されました。「レベル5では既に避難困難」という見解から、レベル4は全員の避難を意味する「避難指示」に変更。レベル3は高齢者の避難を意味する「高齢者等避難」に短縮されたのでご注意ください。



### 3 避難所運営マニュアルの策定

新型コロナウイルスの感染対策を踏まえて昨年5月に策定した「福智町避難所運営マニュアル」を基に、現在の避難所運営を行っています。しかし、発災時の対応に限界のある「公助」に頼らず、自助の意識で災害時の対応行動を事前に想定し、災害に備えましょう。



### 4 福智町地域防災計画の改定

災害関連事務・業務について、「災害対策基本法」と「町防災会議条例」に基づき、関係機関や他自治体の協力を得ながら総合的に計画的な対策を定めた「地域防災計画」を今年3月に改定。国や県の地域防災計画の修正などにあわせて福智町も見直しを実施。



### 5 災害時職員初動マニュアルの策定

福智町地域防災計画を基に、今年3月に策定した「福智町災害時職員初動マニュアル」では、災害発生前と発生時の活動、災害発生から2日間の行政職員の応急対策時の対応をとりまとめています。



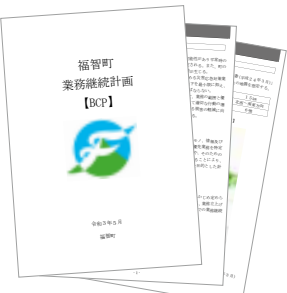
### 6 福智町地域強靱化計画の策定

強くしなやかな国民生活の実現を図るため、防災等に資する「国土強靱化基本法」に基づき、今年3月に「町地域強靱化計画」を策定。この計画を元に、災害被害をできる限り最小化し、迅速に回復できるような「強くしなやかなまちづくり」を進めています。



### 7 福智町業務継続計画の策定

人・モノ・情報が制限される大規模災害の発生時などに、優先的に実施する必要がある行政業務を特定し、業務の執行体制や対応手順、継続に必要な資源の確保などをあらかじめ定めておく「業務継続計画」。厳正に精査され、今年5月に策定しました。



## 福智町内の災害リスクが丸ごとわかる！ Webハザードマップ



大雨による河川のはん濫や土砂災害の発生時に想定される「浸水の範囲と深さ」や「土砂災害危険箇所」、「避難所」などを示した「防災ハザードマップ」。携帯やPCからも確認できるよう、福智町公式HPで「Web版ハザードマップ」の公開を始めました。いざという時にあわてないように確認しておきましょう。



九州朝日放送・KBCの「dボタン広報誌」でも災害情報を発信します！

## CHAPTER 3

# 地震サバイバルの第一歩は想定！ 最悪に勝る備えを

新型コロナウイルス感染症の状況に一喜一憂する毎日が続く現在。その影でひっそりと地震の恐怖が近づいているかもしれません。現状の不安や忙しさを理由に「地震」から目をそらさないでください。「起こりえる最悪」を想定することで救われる命があります。

**最強の防災備蓄は知識 今だからできる行動を**

新型コロナウイルスが流行する今、皆さんの多くは流行状況や感染症対策などの情報を調べたり、予防としてマスクの着用・手洗いを徹底していると思います。人命を左右する重要な新型コロナ問題。それと同じく、地震も平穏な日常や大切な命を奪う重大な課題であるはず。しかし、地震については、コロナ禍の不安や日々の忙しさから、「時間が

あるときに備えよう」と、つい後回しになってしまうものです。日本列島全体で「地震多発期」にある今。福智町の真下にある活断層で地震が起きたとしたら…。自宅や家具が倒壊する恐れはありませんか。身近な避難所や避難経路にある危険を家族で共有していますか。慣れない避難生活を取り切る備えはありますか。10年前の東日本大震災や5年前の熊本地震のように、「もしものとき」は突然に起き、一瞬にして私たちの全てを奪ってしま

ます。全員が被災者になった現場での「公助」には限界があり、「命の選別」から外れたときに「あ」とき備えておけば…」と後悔しても取り返しが付きません。自分や大切な人の命を守るには、自分自身。まずは、自分や家族の身の回りにおける危険を想像してみてください。年齢や家族構成、持病の有無によっても、求められる対策は千差万別。まずは、それらを知ることが、想定する最悪に勝る「最良の行動」への第一歩となるはず。です。

